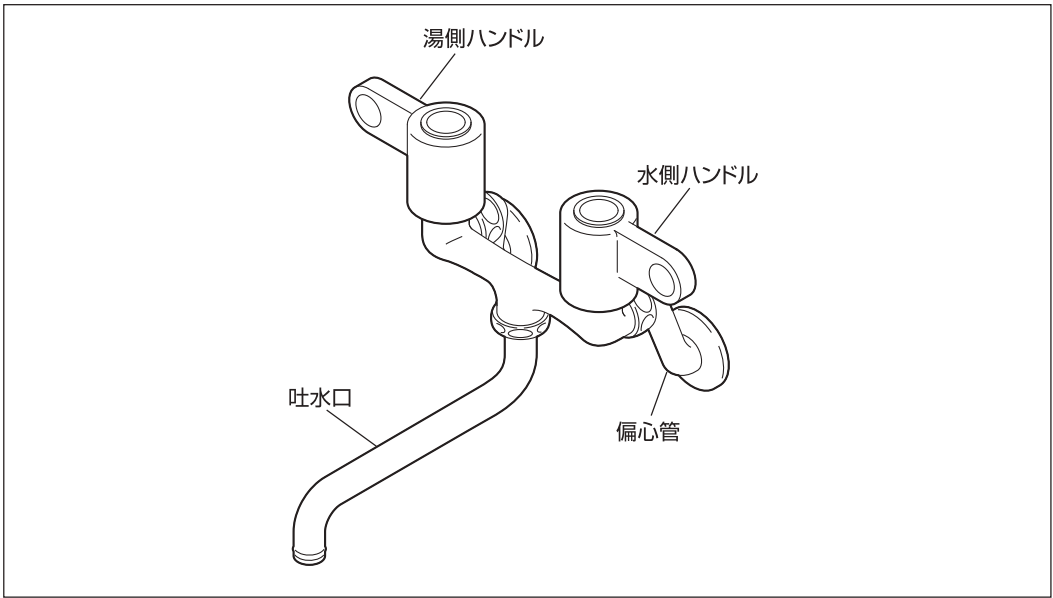


ツール・バルブ混合栓 K11-1

施工 ・ 取扱説明書

- 施工・ご使用の前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工・ご使用ください。
- 施工後、この説明書をお客様へお渡しください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。

本製品について 各部の名称



施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

用語および記号の説明

- 注意**「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
- ⚠「注意しなさい！」（上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）
- 🚫「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
- 🔧「分解してはいけません！」
- 📌「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 注意

- 🚫 **修理技術者以外の人**は、水栓本体内部を分解しないでください。
故障や水漏れの原因になります。
- 🚫 **製品に強い力や衝撃を与えない**でください。
故障や水漏れの原因になります。
- 🚫 **湯水を逆に配管**しないでください。
正常に作動しないため、やけどをする事があります。
なお、逆配管の場合は逆配管アダプター（別売）を使用する事で、逆配管でも表示通りに湯水を使用する事ができます。
- 🚫 **給湯温度は85℃より高温で**使用しないでください。
85℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 🚫 **同梱の部品以外**は使用しないでください。
故障や水漏れの原因になります。
- 📌 **他所の水栓の使用**などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
やけどのおそれがありますので、やけどのおそれがないところまで水圧変動を抑えた配管設備にしてください。
- 🚫 **凍結が予想される地域**には使用しないでください。
部品が破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 🚫 **給湯に蒸気**を使用しないでください。
器具が破損し、やけど、漏水のおそれがあります。

施工について 適切な使用条件

〔水圧について〕

給水・給湯圧力	最低必要水圧(流動時)	最高使用水圧(静止時)
	0.05MPa	0.75MPa

- 給水・給湯圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2～0.3MPa程度に減圧してください。
- 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- 給湯圧力は必ず0.05MPa以上にしてください。

〔給湯機について〕

使用最高温度	85℃以下
--------	-------

- 給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- 誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃給湯をおすすめします。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

〔水質・用途について〕

使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水
用途	一般住宅用

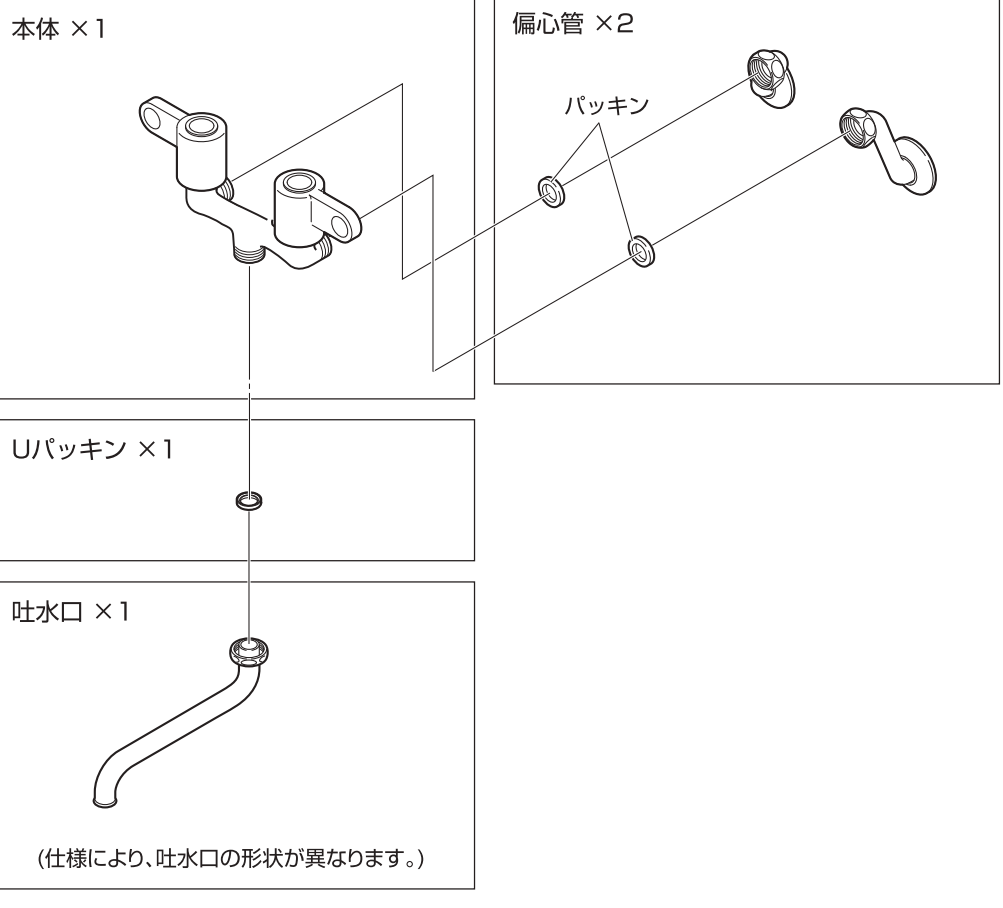
施工について 施工前のご注意

- 給水は、上水道に接続してください。
- 開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。

- 配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。

施工について 梱包明細

- 本書（施工・取扱説明書）×1
- 通水検査をしていますので水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。



施工について 施工手順

主な工具類

- シールテープ：
水栓の偏心管を配管に取付ける際に必要です。
SANEI品番：PP75-1S（シールテープ）
- 使い古しのハブラシなど：
配管掃除ができるもの。
- タオルなど：
ケガ防止や水栓保護のために使用します。
- スパナ・モンキーレンチなど：
水栓のナットが回せる工具。
SANEI品番：PR3351（水栓スパナ）
- 手袋：
ケガ防止のために着用してください。
- ぞうきんなど：
配管中の残り水を拭くのに使用します。
- 元栓がキー式の場合に必要な工具
■止水栓キー
SANEI品番：PR30A（止水栓キー）

1 配管内の掃除をします。

注 意

配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、
必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。
（元栓の開閉は下記を参照してください。）

水栓金具内にゴミなどが混入すると
止水不良や水栓の故障の原因となり、
この場合には有償修理となります。



●元栓を開めて、水を止める方法

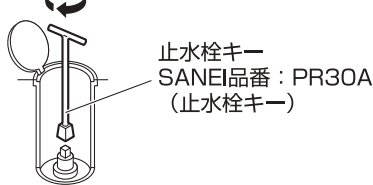
元栓ボックス（メーターボックス）のふたを開け、元栓を右に回して閉めます。

- ※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
- ※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。
- ※一部の地域では左回しの場合があります。
- ※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

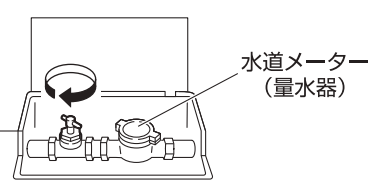
■戸建て住宅などの元栓ボックス：

主に玄関やガレージ付近の地面にあります。
古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあったりします。

●キー式

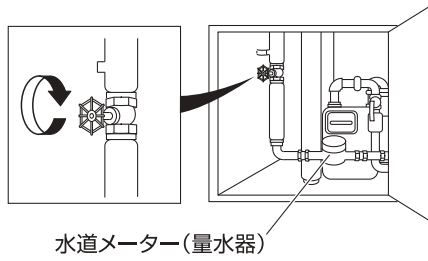


●ハンドル式



■マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス：

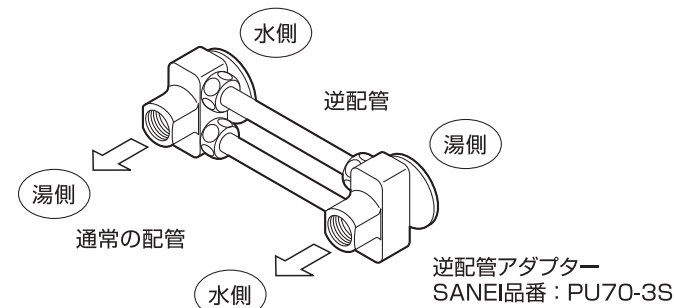
主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。
お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。



逆配管の場合

通常の配管は向かって左側が湯、右側が水ですが、逆配管は向かって左側が水、右側が湯になっています。このような場合には正常に作動しません。
下記の方法を行って、逆配管でも使用できるようにしてください。

- 逆配管アダプター（別売）による対応
逆配管アダプターを使用する事によって、逆配管を通常の配管にします。



※取付方法については逆配管アダプターの説明書をお読みください。

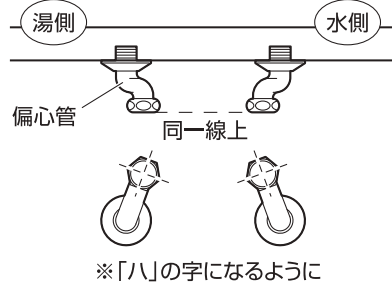
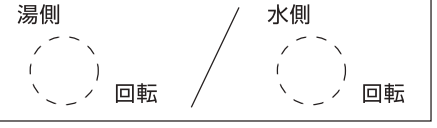
2 偏心管の取付回転を確認します。

偏心管を湯側・水側に分けて配管に取付け、何回転で止まるか回数を確認します。

アドバイス

取付回転数は後で偏心管を仮固定する際の目安にします。

MEMO



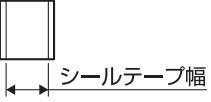
3 偏心管にシールテープを巻きます。

ねじに向かって右向きに、10回程度少し引つ張りながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。



アドバイス

シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。
シールテープ幅に合わせて巻付けてください。

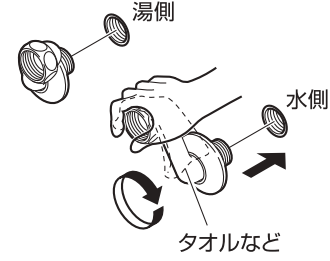


⚠ 注意

シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

4 偏心管を仮固定します。

手順2で確認した偏心管の少ない方の回転数より1回転少ない位置まで、湯側・水側ともにまわして止めておきます。



⚠ 注意

漏水の原因になります。
偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。
もしもゆるめてしまった場合は、手順3をもう一度はじめてから行ってください。

手順2の少ない方の回転数より1回転少ない位置で止めておく。



アドバイス

右記のように偏心管を少し手前で止めておくことで、ねじ込みすぎを防止します。

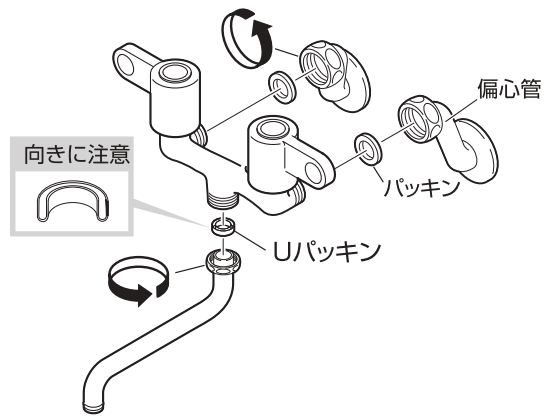
5 水栓本体を取付けます。

（1）水栓本体と偏心管の間に、パッキンが入っている事を確認し、水栓本体がまっすぐになるように偏心管を調節しながら手でナットを締付けていきます。

⚠ 注意

- 漏水の原因になります。
偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。
もしもゆるめてしまった場合は、手順3をもう一度はじめてから行ってください。
- 水栓本体は重いので落下などに注意して取付けてください。

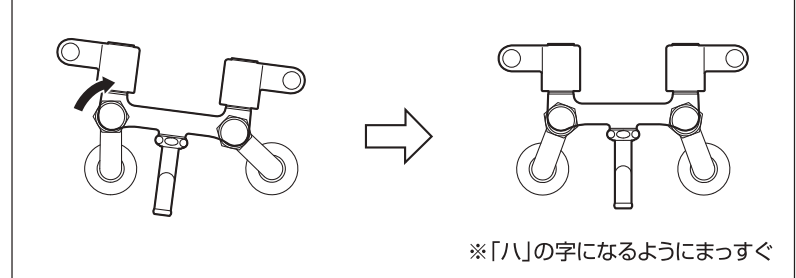
（仕様により、一部イラストが異なります。）



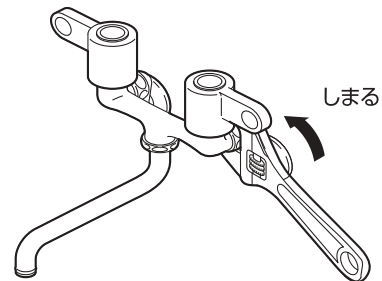
⚠ 注意

偏心管は、必ず本体よりも下になるように取付けてください。

アドバイス



（2）モンキーレンチなどでナットをしっかりと締付け、水栓を偏心管に固定します。



⚠ 注意

緩みがないように確実に締めてください。
ナットが確実に締付けられていないと、本体が傾いたり水が漏れることがあります。

6 ガタツキ・水漏れチェックをします。

接続後、各部にガタツキがないか必ず確認してください。
ガタツキの確認後、元栓を開いて各部に水漏れがないか必ず確認してください。
水漏れがある場合は、もう一度はじめてやり直してください。
最後に座金を壁面に締付けて完了です。

